

2021年7月30日
日揮ホールディングス株式会社

特別損失の計上および2021年度通期業績予想の修正
オンライン説明会における質疑応答（2021年7月30日開催）

※オンライン説明会開催日（2021年7月30日）時点の情報に基づく内容です。

質問	回答
損失計上の背景について教えて欲しい。	個々の係争事案における残存リスク、将来キャッシュ・フローを踏まえた経済合理性などを総合的に判断しながら交渉を進めており、今回、一時的な損失を計上することにはなるが、今後の損失リスクを極力排除することで将来の経営の不確実性をなくしたいという意図であるをご理解いただきたい。
今回の特別損失の計上に係る貸借対照表へのインパクト、会計処理方法について教えて欲しい。	今回の特別損失は、2021年度第1四半期決算に反映させるが、監査法人とも協議しながら現在作業を進めている。貸借対照表への影響等会計処理の詳細については、8月10日に予定している第1四半期の決算発表の場でご説明したい。
イクシス LNG プロジェクトに関する仲裁は、顧客との費用負担に関する仲裁と、途中で複合発電設備の建設役務を放棄したサブコントラクターへの費用に関する仲裁の二つが同時に進行中であると理解しているが、今回の特別損失は、その両方を含んでいるのか？内訳も含めて教えて欲しい。	交渉や仲裁に影響するので、どちらが対象となっているか、さらにその内訳の開示は差し控えさせていただくが、従前よりご説明してきた対顧客と対サブコントラクターを合わせて約 1,000 億円の未回収に対する引当に相当するものをご理解いただきたい。

<p>今回の特別損失の計上に伴うキャッシュ・アウトはあるのか？</p>	<p>今回計上した特別損失による今期のキャッシュ・アウトは見込んでいない。イクシスプロジェクトの係争に関連する将来キャッシュ・フローは減少するものの対顧客と対サブコントラクターを合わせた将来のネット・キャッシュ・フローは依然としてポジティブであり、現在の流動性の状況から当社事業に与える影響は軽微であると考え。BSP2025 に掲げる成長戦略投資の方針にも変更はない。</p>
<p>交渉や仲裁が継続しているにも関わらず、このタイミングで特別損失を計上するに至った背景について教えて欲しい。</p>	<p>7月に入ってから、これまで継続してきた顧客との交渉に進展が見られたため、第1四半期決算に反映することが必要になった。現時点で見込む必要のあるものはすべて引き当てている。</p>

以上